

目次

第10回台北国際図書展	1
理事会報告・お知らせ ほか	2
2001年 洋書輸入統計(後編)	3
新・パソコン外論考(其24)	6
出版文化史逍遙(66) 洋書の歴史雑記帳(XXI)	7

T I B E 2 0 0 2

〈台北国際図書展〉

第10回台北国際図書展が去る2月19日(火)～24日(日)に台北市・世界貿易センターで開かれました。この国際図書展は毎年世界から一国を招いて、その国の出版文化の紹介と出版人相互の交流を図っており、今年は日本が招待されました。この招待を受けて東京国際ブックフェア実行委員会が主体となって設置された「TIBE日本年実行委員会」の一員として、同図書展に参加して参りました。

会場となった台北世界貿易センターは台北市東部に最近開発・整備されて台北市議会や台北市役所などが立ち並ぶ「新区」の一角にあり、新ビジネス街区の中心として偉容を誇っています。国際図書展はこの貿易センターの一階部分ほぼ全面約32,000㎡を使用して開催されました。主催者の発表によると47ヵ国より1051社が1856ブースに出展、最終日夜の地元テレビニュースは20万人を超える参観者があったと報じていました。

日本から送り込んだ176社の和書・和雑誌1400点を、会場のほぼ中央に設置

された「日本館」に展示しましたが、会期初日からおおぜいの市民が来館して熱心に見て回っていました。女性向けの雑誌や、漫画、絵本などに人気が集まっていたのは予想通りでしたが、文学書や哲学書、自然科学系の専門書に関する質問が多かったのは嬉しい誤算でした。展示書のほぼすべては会期終了後台中図書館への寄贈が決まっていたため会場での即売ができず、注文を受け付けるに止めたましたが、最終的には9百万円の受注があった由、日本書に対する関心の高さを垣間見たように思います。

「日本年」では書籍展示と共に日台出版文化交流を主旨とするさまざまなイベントも催しました。芥川賞作家・辻原登さんと中国語翻訳者との対談「私の文学世界：中国」を皮切りに、最終日の里中満智子さんによるシンポジウム「日本人にとってのマンガ」まで

14のイベントが繰り広げられ、好評を博しました。

台北国際図書展は今年に限らず国をあげての大行事のようで、陳水扁総統をはじめ游錫堃行政院長(首



相)、葉国興行政院新聞局長が来場、また「日本館」には総統のほか、張俊雄前行政院長、李登輝前総統が訪問され、興味深げに日本書を手にとっておられました。この図書展に参加していて最も感銘を受けたのは、台湾という国が若さとエネルギーに溢れていることで

した。総統以下政府の指導者の若さもさることながら、何といても経済が活発で市民に元気があり、いささか羨ましさを感ぜさせる7日間でした。

事務局 高橋 紘



理事会報告

3月25日(月)

1. 日販アイ・ピー・エス(株)(1992年入会／正会員)の退会届を受理した。日販本社への業務統合によるもので、同本社には協会に引き続き加盟されるよう要請することとした。

2. 定時総会準備スケジュールを確認した。

3. 2002年度予算・総務委員会案を審議し、一部修正のうえ承認した。総会において理事会案として上程する。

お知らせ

グループ本社への業務統合により本年3月31日付けで日販アイ・ピー・エス(株)より退会の申し出がありましたが、代わって同年4月より日本出版販売(株)が当協会に在籍されることになりました。

会員社名：日本出版販売株式会社

東京都千代田区神田駿河台4-3

※詳しくは2002年版ダイレクトリーをご覧ください。

2002年3月末日を以て下記の会員が英国本社の方針により解散し、当協会を退会されました。

ペンギン・ブックス・ジャパン株式会社

日本洋書協会ダイレクトリー2002 ＜JAIP DIRECTORY＞

25.7×18.2cm 本文67ページ

《頒布価》

会 員 2,500円(送料共)

一 般 4,500円(送料共)

海 外 8,000円(航空便送料共)

＝追加注文承り中！＝

2001年(平成13年)1月～12月の洋書輸入統計 (後編)

荒 木 亮 一

6. その他の国からの輸入通関統計

表6 国別輸入通関額による順位表(単位: 百万円)

国名	2001年1～12月の輸入額			2000実績 書籍+雑誌	前年比	2001年	2000年
	書籍	新聞・雑誌	合計			総合順位	順位
ブラジル	116	429	545	486	112%	12	11
台湾	648	29	677	378	179%	9	13
スペイン	173	4	177	283	63%	16	14
マレーシア	276	1	277	223	124%	14	15
デンマーク	34	124	158	167	95%	17	16
タイ	180	28	208	126	165%	15	17
カナダ	44	27	71	101	70%	20	18
ベルギー	76	3	79	83	95%	19	19
ロシア	54	0	54	66	82%	23	20
オーストリア	10	54	64	51	125%	21	21
オーストラリア	43	15	58	51	114%	22	22
インドネシア	38	1	39	37	105%	25	23
メキシコ	2	0	2	35	6%	31	24
インド	39	3	42	35	120%	24	25
アイルランド	38	0	38	20	190%	26	26
北朝鮮	8	0	8	15	53%	29	27
アラブ	10	1	11	13	85%	28	28
スロバキア	14	0	14	10	140%	27	29
スウェーデン	123	0	123	9	1,367%	18	30
ポルトガル	4	0	4	8	50%	30	31
小計	1,930	719	2,649	2,197	121%	—	—
** その他の国	257	11	268	251	107%	—	—
合計	2,187	730	2,917	2,448	119%	—	—

(**表3の主要11カ国を除く) 注: 2001年総合順位は昨年からの変化を示す。

<考察>「台湾」の躍進振りが著しい。全体のなかにおける構成比は1.16%とまだ低いが、スイス、イタリア、韓国を凌いで一挙に9位と順位では主要国入りするまでになった。遡ってみると、1995年に前年比182%とジャンプしてそれまでの最高を記録したが、その後続落。しかし、1999年に入ると再び増加に転じて、昨年(2001年)は新しい記録の年(1995年の20%)となった。その輸入額の62%が書籍で、35%が幼児用の絵本及び習画本。シンガポール、香港は勿論(前編参照)のこと、マレーシア、タイなど、アジア諸国からの輸入増をみると、出版界におけるグローバリゼーションを改めて感じさせられる。アジア諸国のコスト・パフォーマンスと技術の向上が効を奏しているのであろう。因みに、「シンガポール」からの輸入は

99%が書籍類、そして「香港」からは89%が書籍類、8%が幼児用の絵本及び習画本である。

「スウェーデン」がまとまった数値を示している。その83%が「単一シートのもの」なので特別企画による輸入ではないだろうか。

「ブラジル」と「デンマーク」は前年同様その約79%が雑誌である。前者は昨年の遅れを多少取り戻したが、後者は続落である。日本の不況を反映しているのかも知れない。

昨年の報告で「インドネシア」が前年比で大幅に増加したことを取り上げ、その発展の可能性を見守りたいと付記した。2001年も前年の水準を保っている。インドネシアの経済成長率から考えると、更に伸びそうである。

「北朝鮮」からの輸入増加には、国交の正常化を待たなければならないのだろう。

注: 2001年の総合順位は、前年からの変化を見易いように、国名の順位を変えずに示した。

7. 為替相場の動向と輸入額への影響

表7 為替相場の動向と輸入額への影響

通貨	1999年の 年間平均 為替相場	2000年の 年間平均 為替相場	2001年の 年間平均 為替相場	前年比 (2001年は 一円安)	書籍・雑誌の 構成比 ※(通貨ベース)	2001年度 の影響度 (VS.2000)
US\$	\113.95	\107.85	\121.54	12.71%	39%	5%
Stg. £	\184.34	\165.17	\175.09	6.01%	20%	1%
D.M.	\62.21	\50.95	\55.63	9.19%	5%	0%
F.Fr.	\18.55	\15.19	\16.59	9.22%	2%	0%
D.Gld	\55.22	\45.30	\49.38	9.01%	7%	1%
S.Fr.	\76.02	\63.94	\72.07	12.72%	1%	0%
*[EURO]	—	\99.64	\108.81	9.20%	16%	1%
加重平均	\85.05	\74.73	\81.72	9.35%	74%	7%
その他の通貨の平均	\60.46	\49.84	\51.79	3.91%	26%	1%
計30ヶ国の加重平均	\66.07	\56.27	\59.67	6.04%	100%	8%

* [EURO] は加重平均には含まず、2002年より [EURO圏] として示すことになる。

** [通貨ベース] とは、通貨の発行国からの輸入額のみによる比率を示す。

注: 当データは、富士銀行から提供していただいた「2001年・月中平均」による。

＜考察＞ 為替相場が2年ぶりの前面大幅円安となった。輸入された絶対額の増加率に「円安の影響度」8%をベースに試算すると推定成長率は約9%強と考えられるが、財政再建の進まぬロング・ターム不況のなかで、経営面でプラス成長を達成するにはかなりの困難があったのではないかと推察する。

今回は、単価(輸入原価)の動向を前年比で見てみたいと思う。まず、『輸入価格vs.数量vs.平均単価(原価)』を前年比で：「単一シートのもの」—2001年は輸入が急上昇している—の増減率は(234%：88%：267%)のようになっている：「辞典および事典」は(126%：113%：111%)：「書籍など」は(120%：112%：107%)：「幼児用絵本」では(95%：112%：84%)：「雑誌」は、(116%：104%：112%)である。これらの数値に「円安の影響度」を加味して、主なものの単価(原価)に目を向けてみると、「書籍」は(－1.5%)、「幼児用絵本」が(－22.4%)と率的には値下がりと言うことにある。一方、「辞書および事典」と「雑誌」は(+2～3%)の範囲で値上りを示した。幼児用の絵本以外は、輸入額も数量も続伸していて、円安以外の影響は少なかった2001年であったように思われる。

注：推定値については、輸入先国への支払い通貨は米ドル、英ポンドによるケースが多いと思われるが、当該国が各々その通貨を支払い手段としたとの仮定の上に立った試算であり、多少の誤差があることをご理解いただきたい。また、税関長が公示する相場は、当該相場が適用される日数で加重平均したもので、銀行筋のレートの平均値との間には約0.4%の差異を認めた。

8. 輸入額と為替相場の前年比をベースにした推定成長率

表8 1992～2001年輸入額と為替相場平均値の前年比をベースにした推定成長率

区分 年	書籍・雑誌 輸入額の前年比	各国為替相場加重 平均値の前年比	円高／円安調整 後の推定成長率
1992	110.70%	4.60%	15.30%
1993	87.70%	17.00%	4.10%
1994	99.80%	6.60%	6.40%
1995	105.00%	3.40%	8.40%
1996	117.40%	－14.10%	3.30%
1997	109.00%	－8.00%	1.00%
1998	101.00%	－6.07%	－5.07%
1999	90.56%	14.99%	5.50%
2000	101.12%	13.52%	14.64%
2001	117.37%	－6.04%	9.43%

注：為替相場の前年比は、例年とおり、円高を(+)で示した。

＜考察＞ 円は2001年に入ると対US\$、対ユーロ、対Stg.£で5%～10%下げ、年間を通して円安が続いた。上記の3通貨について年間の加重平均を前年比でみると、それぞれ12.6%、8.8%、6.7%の円安であった。デフレ対策の発表をよそに、日本経済がなお悲観視されているようで、円は対主要通貨で先安で推移しそうである。

9. 洋書関連品目輸入額統計

表9 洋書関連品目輸入額統計(内訳)表(単位 百万円)

品 目		2000 輸入価格	2001 輸入価格	前年比	1990 輸入価格	VS.1990の 成長度
幼児用の絵本及び習画本		2,567	2,435	95%	1,258	194%
楽 譜		635	757	119%	913	83%
地図・ 海図 など	地球儀・天体儀	145	252	174%	178	142%
	製本したもの	36	48	133%	104	46%
	その他のもの	337	394	117%	367	107%
	小 計	518	694	134%	649	107%
葉書、印刷したカードなど		1,416	1,179	83%	843	140%
カレンダー	紙製又は板紙製	1,646	1,615	98%	1,192	135%
	その他のもの	111	111	100%	95	117%
	小 計	1,757	1,726	98%	1,287	134%
その他の 印刷物	広告・商業用カタログなど	4,327	5,724	132%	3,557	161%
	写真	982	687	70%	2,900	24%
	絵画・デザインなど	2,331	2,481	106%	6,456	38%
	その他のもの	19,662	19,928	101%	16,911	118%
	小 計	27,302	28,820	106%	29,824	97%
郵便切手・収入印紙など		472	189	40%	—	—
デカルコマニア		793	869	110%	—	—
設 計 図		189	472	250%	—	—
合 計		35,649	37,141	104%	34,774	102%

注：関税上の注記

(1) 幼児用の絵本については(前編)参照。

(2) 楽譜

印刷したものと及び手書きのものに限るものとし、製本してあるかないか又は挿絵を有するか有しないかを問わない。

(3) 地図、海図その他これに類する図

製本したもの、壁掛け用のもの、地形図及び地球儀、天球儀その他これらに類するものを含むものとし、印刷したものに限る。

(4) 葉書(印刷したものと及び挿絵を有するものに限る。)及び個人のあいさつ、伝言又は通知を印刷したカード(挿絵を有するか有しないか又は封筒若しくはトリミング付きであるかないかを問

わない。)

(5) カレンダー(カレンダーブロックを含むものとし、印刷したものに限る。)

(6) その他の印刷物(印刷した絵画及び写真を含む。)

広告、商業用カタログその他これらに類する物品：絵画、デザイン及び写真。

＜考察＞ 幼児用絵本は数量的に12%増となっているので、需要の落ち込みは考えられなく、単価の低い商品が輸入されたと思われる。最近、書店を訪れるといつも見つけるのは“HARRY POTTER”Seriesの平積みである。4冊が翻訳書とともに並んでいる。手ごろな値段のものが人気なのであろう。

10. 参考資料(輸出通関統計)～I

表10 2001年1～12月輸出通関統計表(単位 百万円)

分類	品目	00/1～12月 輸出価格	01/1～12月 輸出価格	前年比	構成比
書籍 及び それに 類する もの	単一シートのもの	641	510	80%	3%
	辞典及び事典	170	187	110%	1%
	その他のもの	13,524	13,112	97%	69%
	幼児用絵本	43	40	93%	0%
	小計(1)	14,378	13,849	96%	73%
	楽譜	126	112	89%	1%
	地図・海図	42	32	76%	0%
	小計(2)	168	144	86%	1%
	週に4回以上発行するもの	13	13	100%	0%
	その他の定期刊行物	4,391	4,289	98%	23%
新聞・ 雑誌	小計(3)	4,404	4,302	98%	23%
合 計	(1) + (3)	18,782	18,151	97%	96%
合 計	(1) + (2) + (3)	18,950	18,295	97%	97%

注：分類、品目の内容については「輸入」と同じ。為替レートについても同様。

11. 参考資料(輸出通関統計)～II

表11 10年間の輸出通関額対照表(単位 百万円)

歴 年	書籍・辞書・絵本			雑誌・新聞			計		
	価額	前年比	指数	価額	前年比	指数	価額	前年比	指数
1992	28,056	96%	100	5,163	102%	100	33,219	97%	100
1993	23,154	83%	83	4,949	96%	96	28,103	85%	85
1994	20,512	89%	73	5,018	101%	97	25,530	91%	77
1995	18,111	88%	65	4,872	97%	94	22,983	90%	69
1996	18,742	103%	67	4,742	97%	92	23,484	102%	71
1997	17,606	94%	63	4,818	102%	93	22,424	95%	68
1998	17,314	98%	62	4,511	94%	87	21,825	97%	66
1999	15,280	88%	54	4,528	100%	88	19,808	91%	60
2000	14,378	94%	51	4,404	97%	85	18,782	95%	57
2001	13,848	96%	49	4,302	98%	83	18,150	97%	55

注：為替レートの変動による影響を考える場合は「輸

入」の部参照。

12. 輸入と輸出の比率対照表(補遺)

表12 比率でみた輸入額：輸出額の歴史

分類	1974	1984	1994	1995	1996	97～98	1999	2000	2001
輸入	76%	49%	61%	65%	68%	71%	72%	73%	76%
輸出	24%	51%	39%	35%	32%	29%	28%	27%	24%

コメント：2001年の「輸入対輸出」は、27年前の1974年の記録に舞い戻った状態である。「日本の知識の輸出」用には印刷物は媒体として不適当なのであろう。言語の問題は障害として大きい。日本が進んでいる分野の英文出版が必要だと思われる。ITを媒体とする方向での普及も更に伸ばして欲しいものである。

補遺 税関が適用した為替レートのサンプル

	為 替 レ ー ト					
	円/ドル		円/ユーロ		円/ポンド	
2001年	レート	増減率	レート	増減率	レート	増減率
1月	115.19	11.0%	107.34	1.5%	171.21	1.3%
4月	123.99	16.9%	110.63	8.5%	177.49	5.6%
7月	124.43	17.0%	106.24	5.6%	175.26	9.2%
10月	119.46	10.8%	109.48	17.0%	175.06	12.1%
12月	124.54	12.5%	110.66	15.2%	177.80	12.0%

(注1) 増減率は、対前年同月比(絶対値の増減)：2001年は円安で推移。

(注2) 為替レートについては、税関長が公示する相場を、当該相場が適用される日数で加重平均したもの。

正確な情報を読み易くまとめるために、グラフによるヴィジュアル化をしたいと考えているので、ご意見、ご提案をお寄せいただけると幸いです。(おわり)

(前編)のErrata(会報3月号掲載)

(正)

(誤)

Page 3の1.

2001年1月～12月

2000年1月～12月

Page 5の3の別表

2001年EURO圏

よりの輸入額概観

2001年までの

輸入通関額の推移

新・パソコン外論考 (其24)

宇田川一彦

◆ April in Paris./栗色の花咲く巴里の四月

子曰、参乎、吾道一以貫之、曾子曰、唯、

The Master said, "Ts' an! There is one single thread binding my way together." Tsend Tzu assented.

(論語／里仁・Confucius:The Analects/Book IV)

【超拙意訳：「さて、参(曹子の名)よ。私のやり方は、たった一つのことで、貫かれているよ」と先生は言われました。弟子の曹子は、だだ一言「わかりました」と答えました。】

【外注：この後の段で、並み居る弟子たちが、曹子に「先生は、どの様な意味のことを言われたのですか」と尋ねると、「先生の道は、ただ『忠(自己の良心に忠実なこと)』『恕(他人の見を親見に思いやる)』の二つのもので、先生のやり方は首尾一貫しているということです」という問答があります。論語の精神「仁」の変形ともいえます。】

★Internetについて

博物館の取材も相変わらず継続中です。現在は、ここ1か月ぐらいの間に取材すべきところとの微調整に入っているところです。近くでは、横浜開港資料館(kaikou.city.yokohama.jp/)やテーマパークの東京ディズニーシー(tokyodisneyresort.co.jp/)、関西のユニバーサル・スタジオ・ジャパン(usj.co.jp/)、京都国立博物館(kyohaku.go.jp/indexj.htm)、司馬遼太郎記念館(shibazaidan.or.jp/)、印刷博物館(printing-museum.org/)等々を考えています。また、後日この報告もいたしたいと思っています。(http://www.は省略)

★Internet関係のパソコン英語****(16)

e-mailの項目の続きです。筆者も、久しぶりに新しいmailer(e-mailの送受信を行うソフト。Mailing-softともいう)を使わざるを得ない事になってしまい、突然【SMTP】や【POP 3】サーバー名を入れよ、ときたわけです。実は、通信や原稿書きに愛用していた(単純な過去形)DOSマシンのHDDがクラッシュしてしまったのです。まあ、10年近く使用していたからPCそのものは、いいとしても中に入っている「データ」が取り出せなかったのが残念無念です。今取材中

の博物館約300館近くの資料データが水泡に帰したか、と思うと悔やみきれません。

『転ばぬ先のバックアップ』宇田川一彦。

ということで、恥ずかしながら、もう12年近くも、自動的にパスワードを入力して接続するmailerを使用していましたので『覚えていない』(当然、passwordのところにきますと*****と表示)。

ここからが、たいへんでした。providerに電話(これがなかなか通じない)。パスワードの再発行を要請(これは、速達できました。なかなかのサービス。)ただ、12年前の旧住所にしか発送できないとのこと。郵便局に願い出て回送を乞いました。

送られてきたpasswordは、そのproviderに接続するためのもの。すなわち、[log-in] passwordというものでした。(ユーザーIDと組み合わせて、そのコンピュータシステムやネットワークを使用するのが本人であるということを確認する作業に必要なもの)

USER Identification number = ユーザー識別ナンバーというのは、俗にaccount(アカウント/課金符号)といわれているものです。これは、しっかり覚えていたのですが、mailerにたどり着くまでのパスワードも自動でやっていましたので、これも覚えていなかったのです(過去完了形—その行為の結果が現在まで及ぶ)。

早速、providerのアクセスして、そのHP(表紙ともいべきホームページ)でパスワードの変更を済ませました。で、やっとこの原稿もe-mailで送れるようになった次第です。この間のロスタイムは約10日間。

Browserは、定評のあるNetscape6.2とmailerは、フリーソフトのEdMax(某パソコン専門誌に付録で付いていたCD-ROMからインストール)というものを使用しています。で、PCダウン以来のmailが、31通溜まっていました。でも、以前の通信レートから考えると、新しいPCですと20倍ぐらい速いので、引っ張り出すのは意外と楽でした。それと、providerは、新しい通信規約【IMAP 4】(先号に既述)に対応していたのにびっくり。したがって、directmailは除いて必要なものだけ約20あまりを選んで受信。となると、前々からのADSLの件もと考え、電話局に連絡。筆者の付近は、光ファイバー網(デジタル)なので、ADSLは無理、と判明。もうこれは、はやくこいPLC(電灯線通信)です。

(本項続く)乞御期待。

洋書の歴史雑記帳〔XXI〕高野長英と洋書(2)

鈴木 陽 二

◆「蛮社の獄」と長英の投獄

シーボルト事件の連座を恐れていち早く長崎から逃れた長英は、海路熊本に渡り広島に向かったが、その間一時豊後日田広瀬淡窓の咸宜園に入門したという。

広瀬淡窓は江戸末期の優れた儒学者で、彼の元には全国から好学の士が集まった。一時4千人の門人を数えたといい、その中には大村益次郎や上野彦馬などの俊才も見られる。上野彦馬は日本の最初の写真師として知られているが、幕府お雇い医学教師ボンペが長崎で開いた舎密試験所(化学試験所)で化学を学んだ。10冊に及ぶ西洋化学書を参照しながら1862(文久2年)24歳のうちに『舎密局必携』を著したが、当然のことながら、この本にも写真撮影術について記している。彼は撮影技術で優れていたばかりでなく、写真機を製作したり、化学知識に基づいて湿板製作のため必要な薬品類を抽出・合成するなど、化学製品の入手が殆ど不可能だった中で写真に必要な素材・機材を作りだした天才技術者でもあった。

淡窓は天領日田の繁栄を支えた掛屋(幕府ご用達の金融業)の出自だったが、日田は西国天領15万石を支配する郡代がおかれたところで、豊富に集まった資金は日田金と呼ばれ、掛屋によって運用されて町は大いに潤った。郡代および19藩にも及んだ掛屋の大名貸しは、100万7千4百両に達したという(渡辺澄夫『大分県の歴史』)。古い家並みを今に残す豆田町に足を踏み入れるとき、全面格子状の巨大な切り妻のナマコ壁が先ず目に飛び込んで驚かされるが、この界限にはいまだに豪商の家々が見られ、豊かだった天領日田の残影が心に染み入ってくる。

外国船の日本近海への出没に伴って、幕府は勿論、知識人の間で海外への関心が高まり、さまざまな外国事情の解説書や、警世論が世に現れるようになった。田原藩年寄で海岸掛を命じられた渡辺華山は、海防の必要から同藩の三宅友信に蘭学を学ばせて多くの蘭書を購入させたが、その数は友信自筆の蘭書目録によれば兵書だけでも219冊に上るという。そして、それらの蘭書を高野長英や小関三英らに翻訳をさせ、共に西洋事情の研究を行った。こうして、華山は外国研究・海防研究の中心的存在になって、多くの武士層や儒者、蘭学者が集うことになった。幕臣としては勘定吟

味役の川路聖謨や葦山代官の江川英竜(太郎左衛門)、二千石級の大身旗本、また古河藩家老の鷹見泉石を始めとする諸藩士も加わっていた。古河藩主土井利位は大坂城代や京都所司代から老中になるなど幕府の重要なポストを歩んだ英邁な大名だったが、泉石は大坂時代に太閤平八郎の乱の平定に当たり、また藩主を援けて天保の改革などで幕政の裏方として手腕を振るった。古河市の歴史博物館を訪れると、泉石の差配で太閤平八郎を捕縛するときに使った棒が見られるが、度重なる飢饉で呻吟し、幕藩体制のタガが緩みかけていた天保の時代を妙に生々しく感じさせる展示品だった。それはともかくとして、泉石が収集した洋学資料や彼が製作したオランダの地図『新訳和蘭国全図』なども、同館で見ることができる。泉石は蘭学に対する関心が著しく強く、蘭書の収集や蘭学者との交流で豊かな海外の知識を深めていった。片桐一男先生は、古河歴史博物館に収蔵されている泉石の蘭書を調査・分析されているが、現存35冊の中には『ぶりんせん地理書』『すちーれる万国地図』、ツェンペリーの『日本誌』など著名な蘭書が含まれている。歴史・地理・地図が18点と極めて多く、関心が西洋事情の吸収にあったことが理解できる。彼の所蔵した蘭書は多くの蘭学者によって活用され、またその豊富な西洋知識は、たとえば老中としての藩主の職務に役立ち、また竹内保徳が箱館奉行として赴任するときに北辺情勢を聴聞するなど、西洋事情通として広く認められていた。

武士層、中でも重職の武士が華山のもとに集まって、海防を論究していることが幕府の注目するところとなり、一方で幕府の文教を主管する儒家林家も、儒者まで加わったこの蘭学社中の動きを敵視した。そういう事情が絡み合って林家出自の目付烏居耀蔵に告発され、その取り調べ中に渡辺華山の『慎機論』、高野長英の『夢物語』など幕府の異国船打払令に対する批判の稿本が見つかって決定的な罪科となり、彼等を始め多くの蘭学者や幕臣、藩士が罪に問われることになった。世に「蛮社の獄」と呼ばれる事件だった。華山は投獄の後国元で閉門蟄居、長英は永牢という処罰だった。〔参考文献：片桐一男「鷹見泉石旧蔵蘭書」／同「鷹見泉石の洋学」／佐藤昌介『高野長英』／同『洋学研究序説』(元丸善・本の図書館長)

Clinical Evidence

本誌は、日常診療の有効性に関するエビデンスを集積して、6ヵ月ごとに出版されるリファレンスである。コクラン共同計画の成果や『Evidence-Based Medicine』誌の記事をまとめ、毎日の診療で遭遇する多くの重要な疑問に最新の答えを提示する。予防・治療について最善・最新の根拠を使いやすくまとめる。



執筆は、EBMやEBN (Evidence Based Nursing) に習熟した臨床医が担当しており、サマリーは、質の高いかつ適切なシステマティック・レビューやランダム化比較試験 (RCT) の徹底的なサーチに基づく。

本誌は治療法の紹介はしない。治療法の根拠がどこまで明らかになったかを示し、根拠がない治療法については根拠がないということを明らかにする。

特色

★臨床医や患者が求めているトピックや問いを取り上げる／★明瞭な方法論に基づいて根拠をサマリー／★根拠相互の解離を明らかにする／★サマリーは臨床医が執筆／★治療法の利益と不利益を明示／★患者にとって重要なアウトカムを強調／★根拠を臨床へ適用するためのガイダンス／★内科、外科、看護を網羅

各トピックの構成

★背景となる情報の簡潔な説明／★患者に関係するアウトカムのリスト／★治療の目的／★臨床医が遭遇する疑問点と、治療法の利益・不利益に関する最善の根拠に基づいたまとめ

CD-ROM

●No. 6-7 (年2冊)
¥19,800 (個人) ¥35,000 (団体)

雑誌

●No. 6-7 (年2冊)
¥19,800 (個人) ¥35,000 (団体)

雑誌

+ CD-ROM (combi)

●No. 6-7 (年2冊) ¥27,000 (個人) ¥47,000 (団体)

Online

CD-ROMまたは雑誌の年間購読者は無料でアクセスできます。

No. 1-6 (1999-2001年発行分) は一冊ずつのご注文も承っております。

No. 1 ¥14,500 No. 2-3 @¥17,500 No. 4-6 ¥19,500

The Cochrane Library

このCD-ROM (The Cochrane Library) は、コクラン共同計画の主たる成果であり、エビデンスに基づく医療 (evidence-based medicine) の情報インフラストラクチャーとなるものである。



コクラン共同計画は1992年にイギリスでスタートした医療技術評価の世界的プロジェクトであり、1,400件を越すレビューが完成または進行している。医学のあらゆる分野のシステマティック・レビュー、すなわち、ランダム化比較試験 (RCT) を世界中から収集し、質評価とメタアナリシスを行い、3ヵ月ごとに更新して届けるというものである。また、現在、世界に15ヵ所のコクランセンターがある。

それらの仕事をまとめたものが「The Cochrane Library」である。3ヵ月ごとに最新版が発行され、最新の情報が届けられる。このライブラリーには以下のデータベースが含まれる。1) CDSR: コクラン共同計画による各トピックごとのレビュー、2) CENTRAL: 世界中のRCTのリスト (MEDLINEなどの中のRCTを含む)、3) 他の研究者やグループによるレビューのリストとアブストラクト、などである。

このCD-ROMによってコクラン共同計画の全体像が把握でき、また最新のエビデンス (科学的根拠) に基づく医療が可能となる。

年4回アップデート。

●年間購読価 (税別)

CD-ROM < Windowsのみ >

¥ 36,000 (個人) ¥ 52,000 (団体)

Internet < Windowsのみ >

¥ 40,000 (個人)

¥ 70,000 (団体 - Single user)

*その他のネットワークライセンス価格、インターネット Free Trialにつきましては南江堂洋書部までお問い合わせください。

BMJ
Publishing Group

BMJ Publishing Group



日本総代理店 (株) 南江堂洋書部
〒113-8410 東京都文京区本郷3-42-6 ☎(03) 3811-9957
E-mail: nkdyosho@nankodo.co.jp